

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は、法人が定めたものではなく、職員全員で意見を出し合って決めたものを使用している。ユニットごとの、期間を定めた(半年)達成目標を定める予定をしているが、職員の異動やユニットリーダーの交代などがあり、現状実施に至っていない。半年以内に、目標を定めて開始予定。	法人の理念に加えて、グループホーム美咲の家としての理念を分かり易く表現している。さらに1階と2階それぞれのユニットで入居者の個性により異なる雰囲気醸し出しており、取り組む課題も明らかになってきています。	取り組む課題や目標を分かり易く簡潔な文章にして目につきやすいところへ貼り出しましょう。達成状況については、定期的に振り返る仕組みを皆さんで検討して下さい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	事業所として自治会組織に加入。地域の防災訓練や自治会の清掃活動、行事に参加させて頂いている。また、敷地内に倉庫を作り、地域の方々の防災備蓄用品の置き場所として使用していただくよう、自治会長と相談中。	自治会が毎月実施している河川清掃に参加し、入居者もそれぞれできる範囲で手伝っています。古い木造家屋が多い地域であり、災害としては地震と火災が考えられます。災害時用の備蓄として水・乾パンなどの食料品と寝具を入居者用だけでなく近隣住民分も考慮して用意しています。	近隣の方々との接書する場面が多くなるほど信頼感も深まります。予定から計画されていたカフェのオープンを検討されては如何でしょうか。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	現在計画段階であるが、認知症カフェの開催などを検討している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、地域包括センター、自治会長、民生委員、ご家族様、入居者様にご参加をお願いしている。運営推進会議でご家族様より「入居者の日常を知りたい」というご要望をふまえ、年に2回、ご利用者の写真などをおさめたCDROMを全ご家族に無料配布している。	運営推進会議は、「膳所あんしん長寿相談所」の職員も参加しています。意見交換では、事業所の防災対策への取り組み方針や、看取りへの取組みと亡くなられた場合の他の利用者への配慮等の切実な問題、リハビリへの取組みなどについても話し合っています。	出席していただいている方の特性に応じて、事業所側から様々なお願いをされては如何でしょうか。例えば、「膳所あんしん長寿相談所」に対して、イベントの共催を申し出ては如何でしょうか。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	2019年度は、大津市介護保険課より介護相談員が来て下さり、1年間ご指導をいただき、現場のケアの改善につなげることが出来た。その他、なにかあれば管理者かケアマネージャーより大津市役所に連絡するようになっている。	大津市と日常的に緊密に連携し、指導・助言を受けています。最近では、新型コロナウイルスの感染拡大の状況を踏まえて、事業所の対応方針について助言を受けています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日中は玄関の鍵はかけていない。夜間は防犯の為、施錠している。身体拘束の禁止については、全職員に定期的に研修を行っている。現在、ベッドからの転落リスクが高い方1名のみ、緊急やむを得ない一時的な処置として4点柵を使用しているが、ご親族様との同意書の作成、定期的なカンファレンスを行い、拘束解除に向け取り組んでいる。	身体拘束についての研修を年2回実施しています。身体拘束はなく、歩行の際危険な状態の時は職員が付き添っています。足が弱って立てない利用者についてのみ、センサーマットでは間に合わないので4点柵を使用しているケースがあります。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	年間の研修予定に組み込み、実施している。ご利用者の傷や内出血については、全て記録に残している。		

自己	外部	項目	外部評価	
			自己評価 実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	責任者をたて、重要事項説明書に記載している。研修についても年間計画に沿って実施。現在入居者1名、成年後見制度を活用。今後も、希望者には社協及び権利擁護の事業の情報の提供に努める。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際は、事前に2時間程度お時間を頂戴する旨を伝えて、説明及び質問に答えられる時間を設けている。解約の際も十分に話し合う機会を設け、次のサービス事業所や担当ケアマネに引き継ぐように努めている。	
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議にて、ご意見を頂く時間を設けている。また、各階の入り口に意見箱を設置し、週に一回管理者が回収し、すぐに改善を行なう様にしている。すぐに実施困難なご意見については、改善計画をご家族様にお伝えするようにしている。	意見箱や運営推進会議での意見、その他来所された家族からの要望等はすべて申し送りノートに記載し職員間で情報共有しています。また、これらへの対応結果は、メールにてご家族へ返信しています。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月1回全体会議を実施。会議で運営について職員から意見を述べる機会を設けている。また、年に2回の三者面談(職員・管理者・法人理事による)を行い、積極的に職員の意見を聴取するように努めている。	職員の意見を取り入れた例として、リビングでウサギを飼うことにしています。利用者がウサギに触ったり、餌やりやトイレの始末などの世話をすることでおだやかな雰囲気になっています。三者面談は予定の時間を大幅に超すことも多々あります。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年に2回、法人理事・管理者・職員の3者面談を行い、職員の話聞く機会を作っている。日々の業務、職員の勤務状況等、管理者から報告・連絡・相談をしている。	
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修には、法人で全面的にバックアップを行う体制を整えている。現在就業中の職員は全員「認知症介護基礎研修」を修了しているが、研修参加日は出勤扱い、受講費用は全額法人が負担をしている。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	各種研修や交流会への参加、情報提供会への参加などで交流している。	

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の面談は、主治医・管理者・ケアマネの3名で伺い、ご本人及びご家族からの聞き取りを行っている。前担当ケアマネからの介護保険情報を頂き、ケアプランを作成。入居前にご家族、ご本人の同意を得ている。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	初回面接時や契約時にご家族が抱える悩みや介護で困っている事をお話し頂いている。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご家族の介護力や、認知症状の進行具合等、今入居することが適切なのか、既往症や身体状況等、今後の見通しも踏まえて検討している。 状況を伺った結果、グループホーム入居より良い選択肢があった場合、単に入居を断るのではなく、他サービスのご説明、事業所の紹介を行っている。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	1日の流れの中で、利用者の話に耳を傾け、昔の話を教えて頂くなど、共に過ごす時間を作っている。また、一緒に食事を作る、洗濯や掃除をするなど、生活の中のリハビリをケアプランにも位置付けている。			
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	事故の電話報告や、面会時に普段の様子をお伝えしている。また、外出や居室の環境整備等、ご協力頂いている。 今年度看取りを行ったご家族様においては、最期の時におそばにいていただけるように、居室に椅子やテーブルを配置するなど環境整備を行った。			
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	個別性や生活歴を大切に、ご家族から希望があれば、外出や外泊をして頂けるように支援している。以前の隣人と今でも電話連絡をされる方や、ご親族と手紙のやり取りをしている方などがおられる。	年末の年賀状作りや新年の初詣、花見や紅葉狩りなど、季節の行事を大切にすることで馴染みの人や場所との関係性を保つようにはしています。 永年の習慣や好み、知人などの情報はジャンル別に記載する書式を用意して詳しい情報収集に努めています。 電話を掛けたり手紙を書いたりすることに、職員が必要に応じて手助けしています。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者同士の相性や認知症の進行度等を考慮し、席替えやレクリエーションの提供方法等工夫している。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用サービス終了後も、事業所のケアマネより、その後の様子の情報を得ている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時にケアマネージャーが、ご本人の希望を詳細に聞き取り、ケアプランに反映している。また、ケアプランのうち介護に関する部分だけを抜粋して、職員に見やすいようにファイリングしている。	本人の思いや家族からの要望などは、契約時とは別に、時間をかけて丁寧に聞き取っています。「介護記録」には、利用者の様子を時系列的に詳しく記入して引継ぎに遺漏の無いようにしています。また、ケアプランに該当する支援は項目番号をつけて分かり易くしています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に、これまでの生活歴や趣味、嗜好など、詳細な情報を頂戴して初めて「申込完了」としている。ご家族が知り得る限りのご本人様の情報は、全て記入できる書式にしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	朝礼時の申し送り、介護記録での共有。身体状況の健康管理表、排泄・水分チェック表の記入による共有。また、作業療法士との生活機能向上連携による評価をリハビリに活かしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護記録や面会時のご家族との話し合いを活かして、ケアプランに反映させている。	作業療法士が毎週利用者全員の身体状況をチェックしています。これに基づいて、リハビリメニューは全員を対象とするものと個別のものを作成しています。カンファレンスは家族が参加できる時に行っています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ご利用者毎に介護記録を残し、職員は勿論、ご家族にも見て頂ける様にしている。朝の申し送り時に管理者、ケアマネとケアについて話し合えるようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人からの要望があれば、前例がなくても、管理者、代表者で対応を検討している。ボランティアによるレクリエーションなどは、更に発展させてゆく。		

自己	外部	項目	外部評価	
			自己評価 実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	インフォーマルサービスを活用し、出来る限り、一人一人の意向に沿えるようにボランティアの受け入れを行っている。	
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	契約時、普段の健康管理については、医療法人社団あかつき会に対応出来る事、また、希望があれば、入居後もそれまでの医師・医療機関で受診は可能であることを説明している。	医療法人あかつき会から、毎月2回、医師の往診があります。眼科や歯科の受診には、職員が付き添って行っています。従来からのかかりつけ医への受診には、家族に対応をお願いしています。健康診断は毎年2回行っています。
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	非常勤ではあるが看護師を直接雇用しており、必要時に医療行為が行える体制を整えている。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時の情報提供や病状確認など、管理者、ケアマネを中心におこなっている。	
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	心身機能の低下により、(特に医療面でのニーズが高まった場合)グループホームでの生活が困難と思われる場合は、医師やスタッフの意見を鑑みて、ご家族に次の受け入れ先を提案している。当施設でできることとできない事をしっかりお伝えしている。	利用開始時に、グループホームでできることとできないことを明確に利用者や家族の方へ説明しています。看取りは行っていません。終末期に向けて本人の意向を確かめることは難しく、重篤化した場合は、ここでは医療的介護ができないため、提携している病院へ搬送しています。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	応急処置や初期対応については、開所時の研修において実施済み。今後は、介護労働安定センターの研修や、日赤の救急法救急員の資格取得に向けて、職員に啓発していく。	
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	美咲の家は建物が新しく、必要な耐震基準などを満たしているため、大災害が起きた時には地域の避難場所として使ってもらえるように自治会長にお伝えしている。また、敷地内に倉庫を建築し、入居者だけではなく、地域の方の分も含めた非常食、災害物品を備蓄している。	年に2回は建物外への避難訓練を行っています。この地域は土砂崩れや水害は考えにくく、火災以外の災害としては大地震が考えられます。建物は耐震性能が高く、地域の避難拠点となる事を想定し、食料品などは地域住民も含めて2日分を備蓄しています。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	トイレへの案内は、周囲に配慮して行なっている。失敗があっても、ご本人、他のご利用者共に不快な思いをされない様に心がけている。	殆どの利用者がトイレ排泄をしています。失禁の無い人でも下着の上げ下ろしが容易に自分でできるリハパンに変えてもらうなど、自力で着脱ができるように適切な衣料の使用を勧めて、過剰な介護にならないようにしています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日中はリビングでも居室でも過ごして頂ける。その方の判断力や見当識に合わせて質問の仕方工夫したり、2者択一で選んで頂くようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	全体としての基本的な一日の流れは決まっているが、一人一人のペースや意向に合わせて、無理強いすることはない。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	お化粧をしてもらえる方にはしてもらう。整髪をして頂ける方にはして頂く。起床時に服を選んでもらう。購入できる方には買い物や通信販売で購入してもらう、など実施している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ご利用者の認知症レベルに合わせて、その方が出来ることをしていただけるように工夫している。皮むきや調味、食後の食器洗い、食器拭きは、ほぼご利用者にお任せしている。	食事は大きな楽しみの一つであり、手作りを原則としています。メニューは食材納入業者の管理栄養士が作成しています。危険を伴う作業は職員が行っていますが、利用者は、下ごしらえから味付けまで、できる範囲で調理を楽しんでいます。食事はできたての熱々を自宅と同じような感覚で食べています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分摂取の記録をつけ、確認している。トロミ調整剤の使用、ゼリー食、刻み食の提供や、自助具の使用、医師・看護師との連携、栄養補助食品の提供等を行なっている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時と毎食後の口腔ケアを実施している。心身の状況にあわせて支援を行なっている。実施の有無を記録に残している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表に記録を残し、排泄のタイミングやパターンの把握に努め、適切なトイレ誘導となるように活用している。トイレでの介助は手伝い過ぎず、必要最低限の介助にとどめ、自立支援に努めている。現在、ベッド上で排泄交換をする方はおられず、介護度が高い方も、トイレで排泄できるよう下肢筋力の維持に努めている。	トイレに座れば自然に排泄できるものなので、適切なトイレ誘導を心掛けています。特に下肢筋力の維持に努め、自力歩行が困難な利用者には職員が手引き誘導をしています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	自然排便に繋がるよう、毎朝ヨーグルトを提供している。水分・食事摂取量の記録や食事時にお茶等を勧めるなどしている。それでも出にくい方は、かかりつけ医に相談し、薬の調整を依頼している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	基本的な予定は決めているが、余裕をもって計画しているため、ご利用者の体調や要望を反映出来ている。原則、同性介護にて介護を提供しており、快適に入浴していただけるよう入浴時間の制限は設けていない。	2日に1回の入浴を基本にし、利用者には午前浴か午後浴を選んでもらっている。入浴嫌いで週に1回だけとなる利用者もいますが、不衛生にならないようにして無理強いは避けています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その日の体調や表情を見ながら、必要時は臥床して頂いている。安眠に繋がるように自宅で使用されていた布団等の寝具を持参して頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	月2回の往診時に施設と医師で往診記録を共有し、薬の変更や注意点について全職員が分かる様にしている。処方後の経過等の記録と医師への報告をしている。薬表をファイリングし、保管している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	全ての入居者のケアプランに生活リハビリに関する項目を設け、得意なことや好まれる事を活かして取り組んで頂いている。買い物、散歩などの気分転換やカラオケの購入を実施。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常的に買い物や散歩、近距離のドライブなど実施している。また、ご家族と馴染みの美容室に行かれたり、歯科の定期診断に行かれる方がある。	日常的には1台の車に3人の利用者を乗せて職員と買い物に出かけ、併せて近距離のドライブや公園での散歩などを楽しんでいます。季節ごとに全員参加の花見や紅葉狩りなどのイベントと食事会を行っています。個人的な外出には、家族の方が連れて行っています。これらにより、比較的頻度の高い外出支援につながっています。	

自己	外部	項目	外部評価	
			自己評価 実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的には買い物は立て替えにて実施しており、現金は持って頂いていない。買いたい物があれば、職員(または、ご家族)と買い物に行っており、「支払う」という行為はご本人にしている。ご家族の了承を得て、少額を所持して頂いている方もおられる。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	毎年、年賀状と暑中見舞いは、ご本人の直筆でご家族様宛に出して頂いている。電話は、ご家族様の予定とご意向を鑑みて、電話するタイミングや頻度は管理者が判断している。個人で携帯電話を所持されている方もおられる。	
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングには大きな窓があり、自然光を取り入れている。(施設隣には建物がなく、日当たりが良い。)平成29年4月にオープンした建物であり、空調設備(冷暖房、加湿器、次亜塩酸の空気清浄器)は充実している。過剰な装飾をせず、清潔で落ち着いた雰囲気になるように心がけている。	空調の利いたゆったりとした雰囲気のリビングで、ウサギも飼っていて、和やかで居心地の良い空間になっています。利用者は殆どの時間をリビングで過ごしていますが、このため、利用者の中にはデイサービスと錯覚して、夕方には帰宅願望が出る方もおられるとのことでした。ただ、その際は職員は適切な対応方法を心得ているとのことでした。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブル席のほかにソファを設置し、独りになりたい時はソファで過ごして頂いている。テーブル席は入居者の相性を考慮して席決めし、馴染の関係を築いて頂いている。	
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	寝具や家具など、ご本人の馴染みの物をご持参頂いている。居室のレイアウトもご本人とご家族にも協力して頂いている。また、殺風景にならないよう、写真や思い出の品などをお持ち頂いている。	家具類は、入居に当たって新しく買い替えることのないよう、馴染のものをできるだけ少なく持ち込むよう指導しています。室内の掃除も利用者が自分でできるよう支援しています。
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内は玄関から居室までバリアフリーとなっている。トイレや居室、お風呂場などが分かるように大きな字やマークで標記している。居室内や居室からリビングまでの生活動線のリスクを考え、家具やテーブル等の配置をしている。	